

# 芋掘りイベント・レポート

田中 善英

10月24日、恒例の芋掘りイベントの日を迎えました。コロナ渦の中、開催も危ぶまれましたが、佐保台小学校の子どもたちと会員の家族を招待して開催することになりました。いよいよエコグループが丹精を込めたサツマイモのお披露目です。関係者の熱意が伝わったのか、昨日の雨も上がり、秋晴れの日になりました。

9時にスタッフが集合して全体ミーティングと準備、サツマイモ畑の確認。芋畑の土は少し湿っているものの、芋掘りには絶好の状態でした。また芋のつるも非常に元気で、サツマイモも土の中で暴れて広がっており、収穫が期待できる反面、掘るのに注意が必要なようです。



8時50分頃には佐保台小学校のコーディネータの方も到着し、一緒に受付の準備が始まりました。今年は三密を避けるため、事前に佐保台小学校の家族の組分けをしてもらい、会員家族とは別の班にするなど、種々の感染防止対策を行っての開催となりました。



9時30分頃から参加する家族が自動車や自転車、徒歩で到着し、10時前には全員が集まりました。子どもたちの声でベースキャンプが一気ににぎやかになりました。



準備が整った10時、佐保台小学校：25家族72名（児童28名、未就学児童14名、保護者30名）、会員家族：6家族22名（児童8名、未就学児童3名、保護者11名）、スタッフ：19名の計113名が一堂に会しての開会式が始まりました。会長のお芋の話も交えた挨拶があり、続いて注意事項を説明（三密を避ける、危険生物）してから、一斉に芋畑に移動しました。



佐保台小学校は6班（各班4～5家族）、会員家族は1班（6家族）に分かれ、家族間には1m以上の間隔をとって、それぞれの区画で掘り始めました。おっかなびっくりでノコギリ鎌を持ってイモのつるを切り、みんなで協力してサツマイモを掘る。一家族で5株。あちこちで「大きい」、「一杯繋がっている」という歓声があがる。お母さんの「頑張れ」という声も聞こえる。みんなの笑顔がはじけました。

会員は子どもの手伝いや掘り出したさつまいもを一カ所に集めて分類してお土産用の袋に詰め、大きいお芋を探すなど、大忙しでした。

その間に里山に600種類の昆虫がすんでいる事や、植物の豊かさ、大切さを説明すると共に、収穫した芋は800個、一番大きいお芋は大人の顔と同じくらいの長さだったことを紹介しました。最後に収穫したお芋をお土産に、子どもたちの「楽しかった」という言葉とともに11時30分、閉会となりました。